

平成 30 年度第 2 回江南市図書館基本計画策定委員会議事録

日時 平成 30 年 8 月 27 日（月） 午後 2 時～午後 4 時 10 分

場所 消防署 3 階 講堂

出席委員 11 名

伊藤 由香	愛知江南短期大学学長
小塚 昌宏	江南市社会福祉協議会事務局長
伊藤 鶴吉	江南市社会教育委員会会長
伊藤 真理	愛知淑徳大学教授
大川内 元男	市民代表
三輪 陽子	市民代表
柴沼 清子	図書館ボランティア
中嶋 康子	図書館ボランティア
辻中 憲一	図書館館長
早川 由美	古知野南保育園長
鵜飼 明美	古知野西小学校図書館司書

欠席委員 4 名

滝 紀彦	江南商工会議所専務理事
加藤 雅子	P T A 連合会会長
松本 秀樹	古知野西小学校長
山崎 昇暉	元成人の集い実行委員長

議事

* 事務局の発言のうち本市を「市」、図書館流通センターを「TRC」と表記する。

1. 委員長あいさつ

2. 協議事項

(1) 図書館基本計画（案）について

【資料説明】

事務局（市）が資料 1 のうち「2.江南市立図書館の現状と特性」から「5.市民ニーズ」までを説明

【質疑、意見等】

委員：職員検討会において指摘されている市立図書館への交通アクセスの悪さや、地区別利用状況からうかがえる北部の利用率の低さに対処する必要がある。

委員：地区別利用率の二極化には何か原因があるのか。

事務局（市）：利用率二極化の一因には現江南市立図書館の立地条件が考えられる。市北部へのサービスについては計画案の後半で具体的に説明したい。

委員：年齢別利用率との相関はないか。

事務局 (TRC)：相関は確認できていないが、分析することは可能である。

委員：平成 10 年度の「江南市新図書館建設基本計画」が白紙になった原因について、財政上の理由の他にはなかったのか。

事務局 (市)：候補地の選定や購入が困難であったことが大きな要因であったと把握している。

委員：「3.江南市の概要・まちづくりの方向性と図書館の役割」には市内公共交通のカバー率は 78.7%とあるが、全市民はカバーされていないため、今後の公共交通の整備と併せて新市立図書館の検討を進める必要がある。「2.江南市立図書館の現状と特性」の表現について、指定管理者制度の導入と開館時間の延長は必ずしも結びつくものではないと思われる。

委員：将来的な人口減少を見越して基本計画の検討を進める必要がある。ICT の活用を推進する安城市図書館や施設全体を図書館にとらえた大和市立図書館等のように、住民ニーズに応えた図書館づくりが必要である。

事務局 (市)：人口が減少する中でも本市に住み続けてもらうための工夫が必要であり、市民ニーズを考慮して充実した図書館サービスを提供できるよう検討を進めたい。

【資料説明】

事務局 (市) が資料 1 のうち「6.江南市図書館サービスのあり方と整備の基本方針」を説明

【質疑、意見等】

委員：基本理念が抽象的すぎるのではないか。「知の拠点」や「情報発信」等、図書館らしい文言を加えた方がよいのではないか。

事務局 (市)：基本理念の大枠のもと、整備方針でより詳細な検討を行っている。基本理念については再検討する。

委員：安城市図書館では分室等でも本館と同程度の貸出・返却があると耳にした。公民館図書室が充実すれば市北部の利用率を改善できるのではないかと考えるが、公民館図書室について具体的な計画はあるのか。

事務局 (市)：現在の公民館図書室は長期間にわたって資料の入れ替えが行われていないため、今後は定期的な資料の入れ替えによって魅力的な書架を形成し、配本サービスとも結び付けてサービス充実を図りたい。また現江南市立図書館移設に伴い、北部の既存公共施設への新たな分室の設置も検討したい。

委員：公民館図書室にも司書を配置し、レファレンスの行える環境にするべきではないか。また新市立図書館にも足を運べるよう公共交通の整備が必要である。

事務局 (市)：資料照会等による工夫も含めて検討したい。公共交通についてはこの計画の中で定めることは難しい。

委員：現在の配本サービスの貸出・返却の冊数差を鑑みると、各地に充実した分室を設置すれば利用率が上昇するのではないかと考えるが、学校の空き教室等を利用して分室を設置することは可能か。

事務局 (市)：学校図書館との連携は考え得るが、管理体制の問題等があるため、公共図書館としての役割を学校が担うことは難しいと思われる。

委員：市全体の図書館サービスとして新たな分室の具体的なあり方、運営形態はどのようなものを想定しているか。また、高齢化社会をふまえた記載を整備方針に盛り込むべきではないか。

事務局（市）：分室のあり方について具体的内容を再検討して記載したい。高齢者・障害者サービスについては、既存の宅配サービス等の改善・充実を検討したい。

委員：電子図書館や分室が担う機能、提供するサービスを慎重に検討し、あり方を提示しなければならない。現状では、電子図書館のみでは利用者のニーズに十分に答えることは難しいと思われるため、有用な活用方法を検討する必要がある。また学校図書館の活用については地域連携として学校図書館を市民に開放している豊田市の例がある。

委員長：大きな視点でサービスのあり方を検討する必要があるだろう。

事務局（市）：基本理念について、委員の意見をいただきたい。

委員長：基本理念が整備方針などと結びついていると感じるか。

委員：抽象的であるため、「知の拠点」等の図書館らしいキーワードを含めた方がよいのではないか。図書館の側が市民一人ひとりの暮らしに寄り添うという表現も疑問であり、市民のニーズに応える図書館と表現した方がよいのではないか。

委員：「情報図書館」としてはどうか。また市民公募等による親しみやすい命名を期待する。

委員：「寄り添う」という表現がよい。一人ひとりの課題解決を積極的に支援するというイメージがこれからの図書館にふさわしく、身近な図書館を表現した個性的な理念と考える。

委員長：基本理念は図書館に求める役割によって変わり得る。市民交流や賑わいの場、課題解決支援等の役割を重視する場合、情報拠点としての文言を含めると、他の役割の印象が薄らぐおそれがある。本市としては複合施設の中の滞在型図書館を目指している。

委員：図書館の具体的な役割は整備方針で深めていくべきであると考え、基本理念の段階ではある程度抽象的でもよいだろう。

事務局（市）：本会議の意見を参考にして、再度検討する。

【資料説明】

事務局（市）が資料1のうち「7.図書館の蔵書規模と施設規模」を説明

【質疑、意見等】

委員：約30万冊とは開館時の冊数か。

事務局（市）：開館時の冊数ではなく、収蔵冊数の計画値である。

委員：現在の購入・除籍冊数を考慮すると、現在の1.5倍程度の資料費では計画値の約30万冊に到達するまでに年数がかかりすぎるのではないか。

事務局（市）：市の財政を鑑み、早期に計画値へ到達するよう可能な限り予算を確保したい。

委員：いつ頃から「子育て先進都市」を目指しているか。

事務局（市）：「江南市人口ビジョン」で大幅な人口減少が見込まれていることなどをふまえ、子育て世代に選ばれるまちを目指すことで人口減少を食い止めるべく「子育て先進都市」を掲げることとした。

委員：複合施設内で確保可能な規模か、また財政的にも無理のない規模か。

事務局（市）：他機能とのバランスは考慮している。また、必要諸室・規模をふまえて約 3,000 m²を想定したが、財政的にも実現可能な規模である。

委員：維持管理運営費も考慮した上で可能な規模か。

事務局（市）：可能な規模であると考えられる。

委員：約 30 万冊という計画値は分室等も含めた全市的な数値か。

事務局（市）：新市立図書館に所蔵する冊数の計画値である。

事務局（TRC）：収蔵冊数や必要諸室をふまえて約 3,000 m²を想定するが、今後サービス等の検討を進める中で諸室や面積の変動が生じる可能性がある他、複合施設全体でも調整が必要であることから、暫定的数値であることを了承されたい。

委員：サービスが定まらなければ必要諸室や規模も定まらないのではないか。市民協働の観点で見ると、多目的室等の市民の活動スペースが不足しているように思われる。学習スペースも不十分ではないか。ICT の普及・教育を行う場はどのように考えているか。また、整備方針の詳細について議論する必要はないか。

委員長：整備方針の詳細な検討は全市的な図書館機能や方向性を定めた上で進められるだろうが、今回提示された収蔵冊数や必要諸室・規模等に基本理念や整備方針は反映されているか。

事務局（TRC）：施設面積は設定した収蔵冊数を基に算出している。開放感のある図書館になるよう開架スペースの原単位は通常よりゆとりを持たせている。また各諸室・規模は、次回以降提示するサービス計画を概ね想定して設定している。

委員長：面積はサービス計画の検討に伴い変動するものと考えてよいか。

事務局（TRC）：変動し得るが、必要なサービスのある程度想定して面積を設定しているため、大幅に増減する可能性は低いと思われる。また資料 2 は諸室の配置図ではなく諸室間の関係性を示した図である。学習室の面積を増加させる場合は、開架スペースの縮小によって対応することになると思われる。

委員：エントランス、インターネット閲覧席、事務作業室等が狭いのではないか。トイレ・エレベーターは図書館内に確保するべきではないか。レファレンスカウンターは独立させた方がよい。

事務局（TRC）：インターネットコーナーの面積は、タブレット端末の貸出等も想定して設定している。安城市図書館情報館では市の方針を反映させ ICT 推進を重点的に行っているが、江南市でも ICT 活用をより重視する必要があるれば今後指摘いただきたい。事務作業室等は現在より増加する面積分から想定される必要職員数を基に設定している。エレベーターや階段は今後複合施設全体で整合性を図りつつ面積が決定されると思われる。

委員：ボランティアルーム、学習室等全体的に狭い印象を受ける。集会・学習部門を共用部として図書館の外に設置できないか検討してほしい。

委員：整備方針で高齢者・障害者サービスに言及する必要がある。整備方針 4 は市民協働を前面に押し出し、より具体的に提示した方がよい。

委員長：基本理念の大枠のもと、整備方針をより詳細に提示する必要があるだろう。

（2）今後のスケジュールについて

【資料説明】

事務局（市）が資料3を説明

【質疑、意見等】

委員：市民意見を基本計画へ反映させるために、パブリックコメントの開催時期を第4回策定委員会の前に早めることはできないか。

事務局（市）：パブリックコメントにより再検討の必要が生じた場合は委員にも伝える予定である。

3. その他

【第2回江南市図書館基本計画策定委員会 終了】